

逆転は4.3%の57件

開発局、総合評価実施状況

工事成績が価格より高得点

北海道開発局は、本年度12月末現在の総合評価方式実施状況をまとめた。

12月までに1341件を実施し、内訳は標準型が90件、簡易型が1251件。このうち最低札かつ最高加算点の業者が落札した案件が6割以上を占め、最低価格者以外が落札した「逆転」案件は、全体の4.3%にあたる57件だった。

また、06年4月から08年1月までに完成した工事の成績をみると、平均点は価格競争よりも総合評価方式の方が高くなっている。

本年度の総合評価案件は、12月末現在で1341件で、契約額は2076億3600万円。隨意契約を除く全発注工事に占める割合は、件数で80・3%、金額で90・9%。施工体制確認型は標準型53件、簡易型269件の計322件で試行している。

総合評価方式の工種別件数は、一般土木が764件、舗装166件、電気96件、建築83件など。加算点の配点は、標準型では51件が20点未満、18件が20点以上30点未満、21件が30点以上。簡易型は1件を除きすべて20点未満となっている。

落札状況をみると、最低価格者かつ最高加算点者が落札したのは、標準型で47・8%の43件、簡易型で65・1%の814件。最低価格者以外が落札した案件は、標準型で26・7%の24件、簡易型では2・6%の33件だった。

施工体制確認型では最も低価格者以外が落札したのは標準型で22件、簡易型で14件。施工体制確認により低入札者が失格となったケースは9件あった。

また、06年4月から08年1月までに完成した工事の成績では、価格競争案件の平均点が77・2点だったのに対し、簡易型は79・5点、標準型は81・5点と総合評価方式によるものが高くなっている。